ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌　2022

Take free!

なび

9月号
vol. 187

「碧眼の美猫」
旭1丁目付近にて撮影

特集

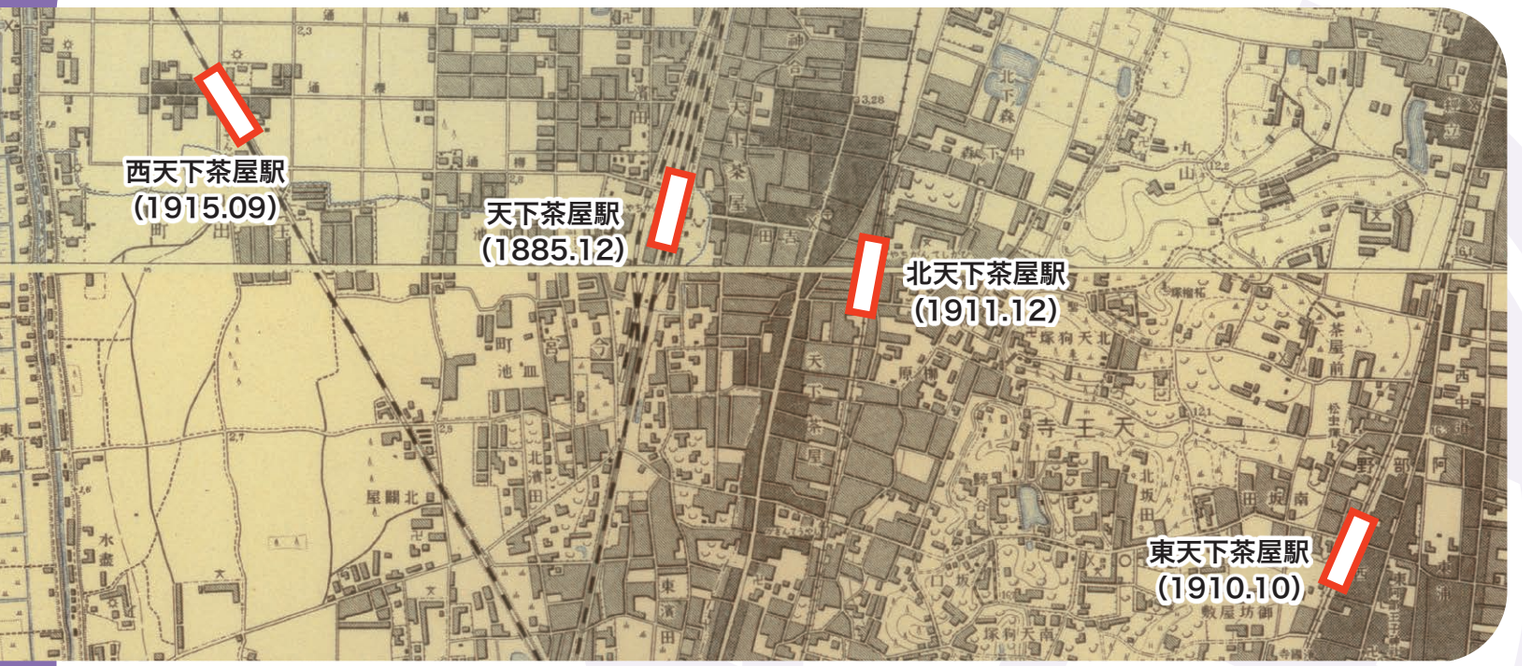
おとなの社会科

第9講 地図 ── 天下茶屋

おとなの社会科

第9講 地図 ── 天下茶屋

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた──そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。



天下茶屋がいっぱい

「天下茶屋」は西成区で最も有名な地名の一つだろう。その由来はすでに本誌でも何度か取り上げているが、あらためて触れたいのは「天下茶屋」という名のつく鉄道駅が4つもあることだ。南海本線「天下茶屋」駅をはじめ汐見橋線「西天下茶屋」駅、阪堺電軌阪堺線「北天下茶屋」停留場と阿倍野区の上町線「東天下茶屋」停留場。大阪市内でこんなに多く駅名に採用されている地名って他にあるのだろうか。

まず誰もが思いつくのは「梅田」。阪急本線「梅田」、谷町線「東梅田」、四つ橋線「西梅田」、それに阪神本線「大阪梅田」の4駅。「田辺」も北・南・西が付いて計4駅、それに「住吉」もあるし、「我孫子」もそうだ。ん？ 意外と多い。ただ、4駅が最多のようで、「天下茶屋」もその部類に入る。それにしても、なぜこんなに「天下茶屋」が多いのか。地名のそれぞれに事情があるのだろうが、本稿は「天下茶屋」の事情を追っかけていこう。

ネームバリューと「東」

鉄道路線は近代都市の発展を方向づける重要な交通インフラである。南海電気鉄道の前身・阪堺鉄道が、大阪と堺をつなぐ路線（現・南海本線）を開業したのは、1885年12月のこと。一説によると、この路線は日本初の私鉄なのだそうだ。開業当初は大和川橋脚の工事が間に合わず、難波駅を起点にして大和川北岸に仮設された大和川駅までの暫定開業となったが、この短い区間のあいだに住吉と天下茶屋に駅が設けられた（堺まで延伸開業されたのは1888年）。天下茶屋駅界隈はすでに市街地化が進んでおり、大阪近郊最初期の宅地開発が行われたところでもある。当時の地図をみると、天下茶屋駅から南東、そして紀州街道を越えて市街地が聖天山のふもとまで広がっているのが確認できる。

聖天山を越えて丘陵の東側に回り、上町台地の高台に至ると、阿倍野でも市街地が形成されている。1910年10月、この阿倍野の集落の西端を走り抜けていく南海上町線（現・阪堺電気軌道上町線）が敷設され、「東天下茶屋」停留場が設置された。この場所の停留場に「天下茶屋」の名を付けるのはなんだか解せないが、聖天山を挟んで「東の天下茶屋」という見方もあるいはできるかもしれない。「天下茶屋」のネームバリューの高さを示唆している。

「北」のなぜ

ところで、これら天下茶屋4駅の位置で気になるのが北天下茶屋停留場である。最も北にあるのは西天下茶屋駅で、その次が天下茶屋駅、そしてようやく北天下茶屋停留場となっていて、「北」とは言い難い位置取りなのである。そこで駅の設置年を確認してみよう。先にもみたように、最初にできたのは南海本線の天下茶屋駅だった（1885年）。そして、しばらく経って東天下茶屋停留場が設置された翌年の1911年12月に北天下茶屋停留場（阪堺電気軌道）、そして1915年9月に大阪高野鉄道（現・南海高野線）が西天下茶屋駅を設置した。

南海本線の天下茶屋駅が起点となって、その後に設置された駅舎にそれぞれ方位が付されたと考えてよいだろう。しかし天下茶屋駅のやや南に位置する停留場に「北」と付けるのは不自然である。別の事情を探ってみると、東天下茶屋と北天下茶屋を設置した会社が共に阪堺電気軌道であることに気づいた。これら両停留場を比べると、新停留場はたしか

西暦	和暦	月	
1885	明治18	12	天下茶屋駅（阪堺鉄道）
1897	明治30	4	大阪市第一次市域拡張
1905	明治38	1	日露戦争俘虜収容所
1906	明治39	1	収容所移転・閉鎖
1910	明治43	2	今宮第一耕地整理事業組合、結成
		10	東天下茶屋停留場（阪堺電軌）
		11	今宮第二耕地整理事業組合、結成
1911	明治44	12	北天下茶屋停留場（阪堺電軌）
1912	明治45		今宮第一次耕地整理事業、完成
1915	大正4	9	西天下茶屋駅（大阪高野鉄道）
1920	大正9		今宮第二次耕地整理事業、完成
1925	大正14	4	大阪市第二次市域拡張

の村域は南北に長く、人口の大半を抱え主な行政機能を担う集落は現・浪速区、つまり北のほうに偏っていた。現・西成区にあたる地域には近郊野菜の栽培が盛んな畑が広がっていた。

明治時代になって大阪の街の工業化が進むと市部の過剰人口は隣接町村に溢れ、1897年には大阪市の第一次市域拡張が実施された。このとき、おおむね大阪鉄道（現・JR大阪環状線）を境として今宮村・木津村の北部は大阪市に編入され、残りの南部は新たな「今宮村」として再編された。その結果、新・今宮村は既存の行政機能が切り離され、村行政を一から出発させざるを得ない状況に陥った。いわば、行政的な空白地帯がぽっかりとできてしまったのである。

この界隈の市街地化の大きなきっかけとなったのが、日露戦争終結後の1905年に建設された日露戦争俘虜収容所である。南海天下茶屋駅の西側、やや北斜向いの畑中にあった大阪陸軍予備病院用地約6万坪（現在の商業施設「カナート」のあたり）に建てられた60棟にロシア兵ら6062人が収容された。しかし当施設が約1年で閉鎖されると、すぐさまその跡地利用が検討され、今宮第一耕地整理組合による耕地整理事業の対象地になった（1910年2月）。

同組合による今宮耕地整理事業は単なる農地の区画整理ではなく、後の市街地化・宅地化を想定された跡地開発事業（対象地域は現在の梅南から橘まで）であった。同年11月には第二耕地整理組合も結成され、1920年に完成した（対象地域は現在の北開から旭まで）。これらの整理された区画は現在の西成の街並みの基盤になっている。その新しい街並みの南限に西天下茶屋駅が位置する。そこは南海高野線の木津川駅と阿倍野駅（現・岸里玉出駅）のちょうど真ん中でもある。来たるべき街の発展を見越したかのような立地だ。

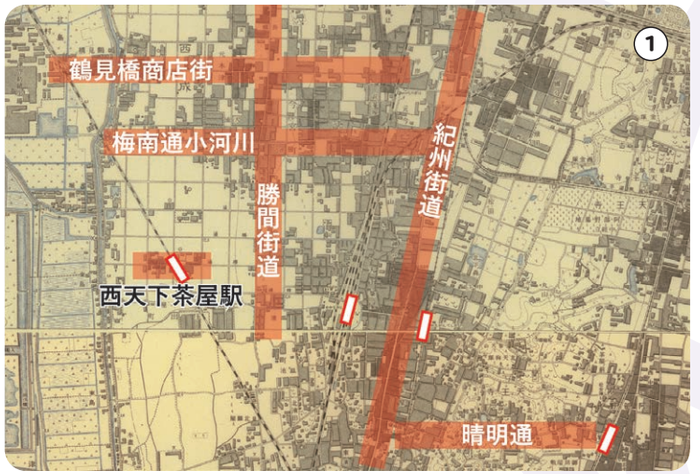
こうして歴史を振り返ると、「天下茶屋」がその隣にぽっかり空いた行政的空白を取り込んでいったというストーリーもそれほど不自然ではなさそうだ。

発展の核と個性

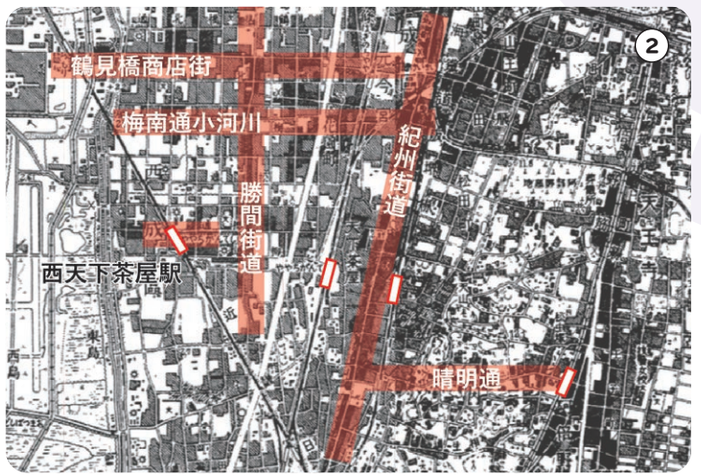
近代以降の地図（①と②）を比較すると、西成の市街地化のプロセスにいくつかの軸や核があることに気づく。①紀州街道や勝間街道など古くからある往来に沿った南北方向の開発軸。②旧勝間村の玉出町は独自に市街地を形成している。③萩ノ茶屋駅と津守駅（津守紡績工場）を東西につなぐ鶴見橋商店街という軸。④現・梅南通りに流れていた小河川沿いも市街地化がみえる。勝間街道との交点に「大流」という地名がある。そして⑤天下茶屋駅と十三間堀川沿いの工場群をつなぐ中継点として、西天下茶屋駅もそうした核の一つに数えてみたい。

これまで筆者たちは西成の街歩きをつうじて街並みの雰囲気や歴史を感じ取ってきた。その感覚をベースに昔の地図を眺めると、街並みの個性が明瞭に浮かび上がってきた。それは生活のかたちを豊かにすることになるだろう。

文責：若松司・安田拓也



『大阪南部』『住吉』1/10000，1921年測図・1923年発行



『大阪東南部』1/25000，1932年修正・1947年発行

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

今日は〝サク飲み〟「居酒屋しらたき」

酒を飲みたいときの気分は大きく分けて2つあると思っている。人と喋りながらダラダラと飲みたい気分。そしてもう1つはサクっと飲んでサクっと帰る。いわゆる〝サク飲み〟の気分、今日の私はこちらのようだ。

サク飲み気分の店選びはふらっと入れそうな雰囲気の店が良い。店の前に噴水がある高級そうな店でサク飲みをしましょう！ なんて人はほとんどいない。そんなことを考えながら津守商店街を抜けて信号を待っていると、居酒屋の看板が目に入った。入口の暖簾は、「大将やってる?」と言ってくぐり抜ける昭和のドラマのような雰囲気を湛えている。ということで今回は津守にある「居酒屋しらたき」をご紹介。

店内に入ると10席ほどのカウンター席があり、おでんやお惣菜がカウンターに並べられ、お勧めの刺身などがショーケースに入っている、〝ザ・居酒屋〟といった雰囲気。調理白衣をまとった店主の坂部さんがお出迎えしてくれた。

最近の取材はビールが多かった気がするので、少し気分を変えてレモン酎ハイをいただくことに。「今日も暑いなあ」という店主の言葉とともにレモン酎ハイのご到着。それにしても日が高い時分に飲む酒はなぜこうも美味いのか、誰か論文にでもまとめてほしいものである。

さて、喉も潤ったのでつまみを選ぼうか。お造りに焼き鳥、お惣菜など居酒屋メニューがいっぱいだ。今日は刺身と元気をつけるために鰻の蒲焼を注文した。お任せにした刺身はカンパチとタイ。新鮮でしっかりと魚の脂がのっていて旨い。濃い味付けのタレとホクホク食感の鰻の蒲焼のせいで、みるみるうちに酎ハイが減っていく。

一杯目を飲み終わったが、もう少しだけ飲みたい。酎ハイのおかわりを頼むと少しつまみが足りない。居酒屋でよくある酒とつまみの無限ループである。追加はカウンターに並んでいるおでんをいただくとしよう。厚揚げとごぼう天のコンビに決定したが、店名の「しらたき」がおでんに入っていなかったのをツッコミそうになってしまった。

居酒屋「しらたき」は50年以上、津守のこの場所でずっとお店を構えている。現在はコロナ等の影響でお客さんが少し減ってしまったようだが、昔は夜中の2時までたくさんのお客さんで賑わっていたそうだ。「ボチボチやるわ」と笑いながら話す坂部さんにお礼を告げて店を後にした。

次はゆっくり飲みで来ようと心に決めて商店街をボチボチ歩きながら帰路についた。いや、それにしても安かった。

文責：山村裕太

居酒屋しらたき
住所：大阪市西成区津守1丁目3番
定休日：不定休
営業時間：16時～22時

[谷口円] AIによる画像生成サービス「Midjourney」のβ版が公開され、AI作のハイクオリティな絵でSNSが盛り上がり中。デザイン業もAIと相性良さそうなので、いずれ仕事のあり方が変わるのかも。

[田岡秀朋] 東京都の杉並区長の岸本さんから「再公営化」の話を聞いた。公共サービスを公務員、民間企業に任せっきりではなく、市民参画型の事業体が世界各地で活躍していることを実感。

[沖田一志] サイバー犯罪の被害に遭う HP が増えてます。先日も改ざんされて別の HP を仕込まれる事件が発生。対策→改ざんの繰り返しで、相手との知恵比べです。今のところ押さえ込みに成功。

melody of Smiles

1学期の締めくくりに親子参加の夏祭りを開催☆ ドルフィンクラスの「和太鼓」演奏、みんなで「盆踊り」、魚釣り、ヨーヨー釣り、スマートボールなどなどお祭り気分を満喫しました♪ 2学期も、元気な笑顔でお会いしましょうね☆

GCC Kids International School

たくやの ろくじょうふたま 畳間 62

ハナレバナレになった人とまち。
くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

再会

猛暑が続くなか、心地よい風の吹く自転車日和のある日。友人が高校生時代の恩師に30年ぶりに会うということで、共に和歌山県日高郡へと向かった。

恩師は教員を退職されると同時に大阪を離れ、無添加のパン屋さんをご夫婦で営むことを決意された。友人と恩師は今もSNSを通じて連絡を取り合う仲らしく、いつか自分の足で会いに行きたいという思いを抱いていた。彼の念願に付き合い、筆者は共に練習して力をつけてきた。

いくつかの峠を越える片道150kmの道のり。最終25kmは紀伊半島の大自然に臨む。筆者はかつての高野山登頂で、深い木々に飲み込まれてゆく感覚を体感したことがある。サイクリングは日高川を上る手前、御坊までの125kmで体力が尽き果て、恩師の迎えを待つ結果に。悔しさは残ったが再会は果たせた。

翌朝はお店に伺い、積もる話にお腹も満たされた。帰路ではこれまでとは桁違いの峠越えを経験し、JR湯浅駅到着後は電車で帰阪。道中面白い場所にも立ち寄ったので、次号もお楽しみに。

（安田拓也）

自然に囲まれた天然酵母パン「こむぎっ子」に到着

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのてっちり系コラム。

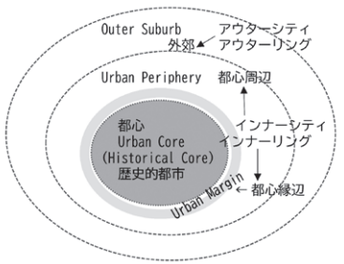
都市を考える②
『空間構造に置く』

前回に続き「密度で食ってきた街がどのように生き残って行くのか」という西成的課題を考えてみたい。人口の増加をベースに勝者／敗者という観点でオール日本を眺めると、戦時期を経て高度経済成長期までは、都市のみならず中山間地域も含めて、敗者を産み出さない空間構造を維持してきたと言える。平たく言えば、都心、その周辺、郊外、中間地域、山間地域のいずれもが人口を増加させ、人口ピラミッドも殆ど相似形を維持してきたのである。

西成区は間違いなくその勝ちパターンの王道を歩んできた。大正末期、前身の今宮町は、渋谷町に並んで、町単位での人口規模が日本一となり、隣の天王寺村と並んで都市間競争の勝者だった。戦災も克服し1970年代には再び人口はピークに達する。

ところで、都市の空間構造を簡単にでも知っておくことは、西成の現状を考える上で必須である。都市は中心から同心円的に、いわば年輪を刻んで成長していく。中核の都心部 urban core は概して江戸時代に形成された歴史的都市である。その周囲、江戸期から明治期には都市縁辺 urban margin、その外に明治末期から昭和初期に成長する都市周辺 urban periphery、大正末期から戦時下にはさらに外側に都市郊外 urban suburb が形成された。都市の縁辺と周辺を合わせて「インナーシティ（リング）」と呼び、郊外は高度経済成長期にあちこちに開発されたニュータウンも含めた外郊 outer suburb と合わせて「アウターシティ（リング）」と呼ぶ（図を参照）。

では、西成のプロセスと特質をこうした広い空間構造内に位置付けるとどうなるのか。西成区の成長は高度経済成長期には磐石かつ薔薇色に見えたが、他方でこの時期には、中間山間地域から多くの人口が都市に向かい、受入先である都市の空間構造は分極化していった。特にオイルショック以降、まずは都心やインナーリングの夜間人口のドーナツ化現象、次に生産機能と住機能がセットで失われて行くインナーシティ問題に襲われた。いずれも低密度化や郊外の庭付き一戸建て施策、高度な通勤交通網といった日本独特の事情により、空間構造の都心部が諸外国に比べ著しく劣化した。



アンチ過密、アンチ共居、職住近接の前提も崩れ、小売り自営業への逆風、共稼ぎを支えるインフラの欠如と三世代家族の縮減など、当時の政策ムードでは致し方なかった面もあるが、こうした多重な要因で、都心、縁辺、周辺は総崩れとなる。まさしく敗者の道になだれ込んだのである。西成区はそのストーリーを最も見事に歩むことになった。世界的にも異例なこの都心部は社会的にも物理的にも衰退を見ている。

ところが2005年以降、大都市においてはこの流れを覆す大きな動きが起こっている。一般に「都心への人口回帰」と呼ばれるが、タワマンや外国人の激増という新しい要因が都心部への人口再帰を見て、都市縁辺部や周辺部にも関連する動きが見え始める。西成区北部もその動きに乗り始めている。次回はその動きの特質を述べたい。

ハンプティ・T

[安田拓也]映画『破戒』を観た。一生消えることのない烙印と戦い続けなければならないその重荷は、測り知れないのだと思う。局面で様々な立場・思いが交錯する。想像するだけで重い。

[福井龍磨]最近、北海道のタコ部屋労働について調べている。人柱で有名な常紋トンネルは1914(大正3)年に竣工、工事中に100名以上の犠牲者を出した。それから1世紀が過ぎ、当時を知る人ももういない。

[西原夏美]コロナ陽性の友人が増え濃厚接触者になってしまい、「身の回りにまで来たのだな」と実感。「屋外では大丈夫」とマスクをつけない人もいますが、気を付けてほしいものです。

[西田吉志]にしなり隣保館で開催される「西成慰霊碑建立会慰霊祭」。今年は9月24日(土)に予定されています。あり日の故人を偲び御霊を敬う心、この街でつながったすべての「縁」を大切に思う日。

葉っぱの吐息（といき）

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

今回は取り壊しが始まる建物に咲いている葉っぱと花の様子を書きました。寂しいけれど新しい場所でもう一度楽しもうという意気込みです。

「廃館の庭の葉っぱたち」の巻

この地に根付いて約40年。
いろいろな事を思い出す。
たくさんの老若男女がわたしの前をとおり過ぎた。
笑う声・歌う声・応援の声。
朝から夜までにぎやかだった。
ある日を境に通り過ぎるのは
静寂（せいじゃく）な空気と迷子のねこ。
にぎやかな時代、ひっそりとした時代。
見守りつづけてきた地とお別れだ。
いままでありがとう。お世話になりました。
わたしは風にのって仲間と旅にでた。

赤井まゆみ

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。

8月5日、3年ぶりに盆踊り大会を開催することができた。コロナ感染第7波の全国的な拡大にもかかわらず行動制限は出ていなかったが、例年の地域の皆さんのご協力による出店は見送った。それでも多くの方が踊りに来る様子を見ていると、コロナで疲弊する地域でお盆らしいイベントを開催できて、本当に良かったと思う。

しかし、この第7波では身近に感染者が出て、改めて感染力の強さを感じる。ただ、予防接種のおかげか、それともウイルスの性質なのか、症状は比較的軽い傾向のようだ。重症になったというのはあまり聞かない。病院で陽性と診断されて処方される薬が風邪薬というのももどかしい感じがする。早く薬が認可されてすぐに効果的な治療ができる日が来ることを待ち望んでいる。

（寺本良弘）

いい湯かげん

水平社一〇〇年の時空を超えて⑥ 松田喜一、選挙を闘う

冨田一幸

今回は、戦前の松田喜一が立候補した府議選、市議選の二回の選挙についてです。

まず、1935年の大阪府議選浪速区からの立候補です。この頃、大阪では、無産団体協議会が、府議選で統一候補を出そうと協議し、松田喜一が推されました。前回府議選東成区での小岩井浄弁護士の獄中当選の再来をめざしたのです。結果は627票で惨敗でした。全国水平社の機関紙『水平新聞』は、西浜には3500票もあるのに（この時代は男子だけの選挙権）、惨敗したのは深刻だと総括しました。

落選しても松田喜一は、社会大衆党（社大党）に無産団体が合流する反ファッショ統一戦線を作ろうと奔走しました。市電従（現在の大交労組）の松田長左衛門らと共に上京して、対立する両者を説得しました。しかし、無産団体は「社大党は右傾化している」と反発し、社大党側も門戸を閉し、統一戦線は叶いませんでした。

それでも、1937年、松田喜一は、今度は大阪市議選に西成区（定数7）から無産団体推薦で立候補しました。浪速区（定数5）では候補者を1人に絞って栗須喜一郎が社大党から立候補し当選しました。西成区では社大党系から4人が立候補し、うち2人が当選し松田は落選しました。栗須3059票、松田喜一527票は「西浜部落票」の少なくとも過半以上を獲得していると想像させます。松田喜一の戦略は「栗須必勝」シフトだったのかもしれません。また、皮革労組を指導した後、社大党市議候補に転じた椿繁夫も、港区で当選しています。今回の舞台写真は、この時の選挙ポスターです。「ファシズム反対、無産戦線の統一」と旗色鮮明です。ハングル文字は当時朝鮮人も選挙権があったからです。

この年の7月は、日本が中国への侵略戦争に突入する歴史の分岐点でした。松田喜一は戦争とファシズムに反対し、懸命に統一戦線を試みながらも敗退しました。大阪市議会も、社大党22議席の躍進で、与野党拮抗しますが、侵略戦争突入で社大党も戦争協力に転じ、やがて、任期途中で市議会の政党はすべて解党し、翼賛議会になってしまいます。そして、松田選挙と同じ9月に、全国水平社は重大な転換をします。「非常時の全国水平運動」というもので、日中戦争への態度を「棚上げ」して、部落の生活擁護に邁進するということでした。

得票だけ見ると惨敗の松田選挙ですが、ファシズムを止めようとしていました。「たられば」ですが、反ファッショ統一戦線が成功していたら、福岡で松本治一郎が参院に踏み止まったように、栗須喜一郎、椿繁夫と松田喜一が揃って市議会にいたら、と考えてしまいます。

時空を一〇〇年戻して、いま。参院選での野党共闘の敗北と、それまでの野党の議論の経緯は残念です。水平社は何故戦争に最後まで反対できなかったのか、解明されていませんが、統一戦線は検証テーマの一つで、戦前の松田選挙を再評価してみました。次回は、もう一つの検証テーマ、水平社と融和団体の関係のあり方について、松田喜一の対応を振り返りたいと思います。

［若松司］『破戒』が映画化された今年は中上健次の没後30周年でもある。「路地」を経巡るルポ『紀州』を久しぶりに読んだが、部落差別についての思索はいま読んでも新鮮で刺激的だ。

［山村裕太］夢はよく見るほうなのだが、未だに大学の単位が足りない夢を見ることが多い。割と単位には余裕を持って卒業したのになぜなのか。夢占い師さん、教えてください。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺さんの心の時間

先日、ある男性が急死し、残された妻と小学生の娘は深い悲しみを背負いました。ご婦人は寂しさを紛らわせようと、亡夫の遺骨が入ったネックレスを身につけるようになりました。そのネックレスを手で覆い「いつでも私のそばにいて。どこにもいかないで」と念じて、かろうじて心のバランスを保っていたのです。ご婦人は娘を案じ「パパの形見を身につけたらパパが守ってくれるよ」と勧めると、「ママ、パパの形見はいらないよ。だって私がパパの形見だよ」と応じました。母への「思いやり」がこんな素敵な会話を生んだのです。

この話を聞いて「形見は一生大切にするものです。自分のことを形見と言うのなら、まずは自らの人生を大切にして下さい。そしてこのネックレスのようにお母さんの心を支えてあげられる大人になって下さいね」と娘さんに伝えました。

「忘れ形見」という言葉。自分の人生は自分のものに違いありませんが、大切な人の「形見」でもあったのです。切なさと優しさが身に沁みた出来事でした。

松向寺　通法

ココドコ

ここはドコ？
わたしはダ～レ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

2022年6月撮影

建物の上の部分に絵が描かれています。それが可愛らしい絵だということがヒントになるかも。ココがドコだかわかった人は、ゆ～とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は9月末日、ふるってご回答ください！

［先月号の答え］ 長橋3丁目5-32の三星温泉でした！冬の銭湯も良いですが、汗を流してさっぱりする夏の銭湯も最高です。

ゆ～とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 9月号（vol.187）
発行日：2022年9月1日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
住所：大阪市西成区長橋3-6-33
電話：06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長：若松司
編集：沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki　デザイン：谷口円

（株）ナイス ホームページ